



◆芭蕉が生前に唯一公表した俳文

江戸時代前期の俳人松尾芭蕉（一六四四〜九四）は、代表作『奥の細道』の旅を終えた翌年、元禄三年（一六九〇）四月六日から七月二十三日までの間、近江国国分山の中腹にある幻住庵に滞在した。幻住庵は門人曲翠が、伯父・幻住老人の旧庵を修理して芭蕉に提供したものだ。
本作は、芭蕉が約四カ月を過ごしたこの幻住庵についての記で、生前に唯一公表した俳文である。
幻住庵の由来、庵に入ることになったいきさつ、庵からの眺望、また日々の生活、人生観などが記され、

芭蕉が庵での生活を心から楽しんでいた様子を感じることができる。そうした日々の中で、自身の半生を振り返り、俳諧の道への思いを語る終盤は特に有名である。

幻住庵滞在中に企画された『猿蓑』（門人去来・凡兆編集。元禄四年七月刊行）は、句集と文集から成る予定であったが、芭蕉の意向により俳文は「幻住庵記」一編のみの収録となった。
芭蕉は刊行に向けて、門人等に意見を求め、練り直して何度も原稿を書き改めた。本書の巻末に貼付されている門人支考の「奥書」には、「初の草稿は洛の去来にあり、第二の草稿は此

一卷也。第三は猿蓑集に出で世に人のしれる所也」とあり「幻住庵記」の原稿を三種（初稿・再稿・定稿）挙げる。現在では、その他にも草稿のあったことが知られている。

本書はそのうち芭蕉が庵を離れる前後、七月中下旬頃に書いたとされている再稿本で、旧蔵者の名から米沢本との称もある。芭蕉自筆稿本の中で整った成案とされるが、更によりよい文章にするための苦心の跡だろうか、言葉の付加、また訂正などの箇所がある。原稿完成への過程をたどることのできる貴重な資料となっている。

（天理図書館 瀬川浩子）

＜天理図書館のお知らせ＞

Tel 0743-63-9200 URL <https://www.tcl.gr.jp/>

◇平日（午前9時～午後5時半） 土・日・祝（午前9時～午後4時半）

○本書は、天理参考館で10月23日～12月2日開催の「芭蕉の根源—北村季吟生誕四百年によせて—」に出品します。

※最新の情報については公式HP、X（旧 Twitter）でご確認ください。

▶【げんじゅうあんき】

松尾芭蕉自筆 1軸

元禄3（1690）年頃

縦14.9cm 横150.2cm（本紙）

